

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立市橋小学校

校長名 寺田 幸広

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>□コミュニティ・スクールの再編                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市橋の未来を考える会」創設</li> <li>・コロナ予防を踏まえた活動計画</li> </ul> </li> <li>□コミュニティ・スクール活動の充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てプログラムの評価と改善</li> <li>・土曜授業での地域団体との連携</li> <li>・地域講師の積極的な活用</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度評価から地域活動に重点を置いて取り組み、「未来を考える会」が中心となって、巡回ラジオ体操、夏祭りを開催することができた。また、家庭や地域と連携し土曜授業12内容すべて実施した。</li> <li>・地域4項目及び「きょうりよくする子」の数値が3.03(+0.17、4点満点)に向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会と支援推進委員会の連携について文部科学大臣表彰がいただいたことはすばらしい。</li> <li>・コロナ予防に配慮しながら、地域行事を大部分再開できた。ラジオ体操等1,000名を超える参加者があり、市橋地域の一体感を感じることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育てプログラム」の項目が3年目を迎えるので、運営協議会で内容を再検討する。</li> <li>・土曜授業の内容について再検討し、支援推進委員会の協力を得て、地域行事や諸団体との連携を促進する。</li> <li>・年間を通して授業参観及び学級・学年懇談会を再開する。</li> </ul>
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童の力を伸ばす教育課程編成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導、援助の工夫</li> <li>・テーマを追究する総合的な学習</li> <li>・英語活動、英語授業の充実</li> </ul> </li> <li>□ICTの有効活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる学びの継続</li> <li>・家庭学習における個別最適化</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業用ソフト先行実践校として教委担当者と授業でのICTの活用方法を検討した。希望者に常時オンライン授業を実施した。</li> <li>・英語専科及びALTが軸となって、楽しい英語の授業を考案し、公開した。</li> <li>・学習アプリを活用して家庭学習を進めた。</li> <li>・全国学調は全項目で市平均を上回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がタブレットを使いこなしている。児童の意見がデジタル黒板に一覧で映し出せるので、学級全体の傾向がつかみやすい。家で使いすぎでないか心配だ。</li> <li>・英語授業で、児童が元気よく授業に取り組んでいる。日常生活に役立つ実践的な英語を学んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎふMIRAI's」構想を踏まえ、家庭・地域との連携を深めながら、総合的な学習の時間においてテーマを意識して探求的な学習に取り組めるようにする。</li> <li>・デジタルでの交流学习を進める。</li> <li>・学習アプリを活用し個別最適化された家庭学習の取組をさらに進める。</li> </ul>
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>□精華中校区一貫教育の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り、通学班の異年齢交流</li> <li>・相互訪問による児童理解促進</li> <li>・学習、生活の指導方法の交流</li> </ul> </li> <li>□幼保小連携の促進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援教室、エールとの連携</li> <li>・地域の幼保との新入生交流</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学所属の指導教諭やほほえみ相談員が週1で来校し、特に特別支援や不登校傾向対応での連携を深めた。</li> <li>・中学生の職場体験やあいさつ活動等、小中交流を進めた。</li> <li>・のべ200名を超える保護者や地域の方が土曜授業に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中間の交流は、今の子どもたちにとって良い経験である。2小1中の学校でも取組を決めて進めていくとよい。</li> <li>・小中一貫には賛成で、小1から中3まで、同じ場所で学べるようなスタイルが理想である。そこに地域コミュニティも併設されれば、放課後の過ごし方も多様になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎふMIRAI's」構想を踏まえ、精華中校区で9年間を見通した総合的な学習の時間の計画づくりを進める。</li> <li>・学校教育活動や地域行事の場における小中連携活動をさらに進める。</li> <li>・小中教職員の相互訪問の機会を増やす。</li> <li>・幼保小の連携の機会を増やす。</li> </ul>
教育環境と学校財務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>□教育環境の整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級増に向けて教育施設整備</li> <li>・勤怠、会議、研修のデジタル化</li> <li>・個人情報管理の徹底</li> </ul> </li> <li>□財務環境の適正管理と透明化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・確実な会計処理</li> <li>・各種選定会議への保護者参加</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤怠管理、出欠・体調管理、家庭学習は本年6月より、心情把握は1月よりデジタル対応となり、職員、家庭とも100%加入しているため、従来より迅速に把握できる。</li> <li>・デジタル化により印刷経費が削減。</li> <li>・修学旅行や教材等の業者選定に保護者代表が参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設が老朽化してきている。特に中舎は薄汚れていて、照明も暗い感じがする。また、タブレットを置くと机が狭い。</li> <li>・前年に引き続き、印刷経費が削減され、学校予算を有効活用しているところがよい。</li> <li>・選定会に参加して、多様な視点で業者が選定されていることがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童増に伴う学習環境整備の要望を引き続き継続して行う。</li> <li>・デジタル化の促進によって、学級・学校事務作業の円滑化、時間短縮、経費節減をさらに進める。</li> <li>・補助教材費用の支払い方法について、業者と簡便な方法を検討する。</li> </ul>
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>□非常変災、交通事故等への対応                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防の徹底</li> <li>・通学班登校、個別登校の融合</li> <li>・地域の防災訓練への児童参加</li> </ul> </li> <li>□いじめ防止基本方針の徹底                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止と早期発見</li> <li>・事案対応手順の確認と見届け</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の交通事故は本年もない。いじめ・問題行動件数は前年を下回っている。</li> <li>・5年生が、DIGを行うとともに地域の防災訓練に参加し、児童の防災意識が高まった。</li> <li>・県市方針に従い予防を徹底し、校内感染はごく少数にとどまったが、本年の児童の累計感染者数は300名を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期個別登校になって、低学年児童の下校中の危険なようすも耳にすることがある。通学路安全マップを作成してはどうか。</li> <li>・若い先生方が増える中、いろいろな保護者があり、難しい時代になってきている。関係諸機関と協力しながら専門的な知見を生かしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期通学班登校・後期個別登校は継続するが、家庭でも通学路を確認してもらうため、支援推進委員会の安心安全部会で通学路交通安全マップを改訂し、長子配布する。</li> <li>・「ここタン」を有効活用しながら、トラブルの未然防止に努める。</li> </ul>

HPアドレス : <https://gifu-city.schoolcms.net/ichihashi-e/>